

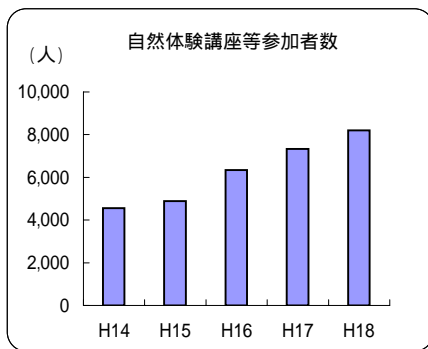
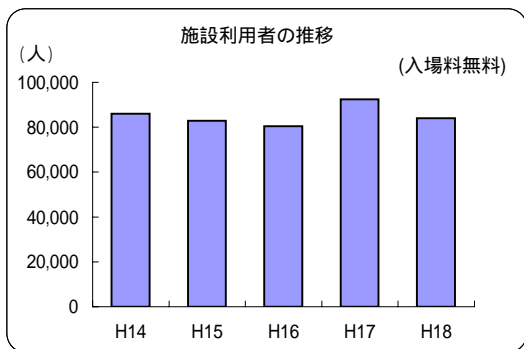
海浜自然センター(1/2)

海の素敵発見館 福井県海浜自然センター

所在地	三方上中郡若狭町世久見18-2(食見海岸)		
設置年月日	平成11年7月20日		
施設の種類	展示・体験施設	施設管理主体	県
設置の目的	人と自然が共生したやすらぎある県民生活の実現に向け、より一層自然への理解を深めていただくため、本県の豊かな海を知り、体験していただくための施設です。学習、体験、情報収集と提供などの機能を備えており、県民の皆様の自然保護意識の高揚を目的としています。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上2階 延2,122㎡ エントランスホール・体験学習室・スノーケル体験施設・展示室・マリンホール(3Dシアター)・海のライブラリー(授乳室あり)・展望デッキ		
職員数	職員5人 非常勤嘱託1人 アルバイト1人 計7人		

利用状況 自然体験講座等参加者数は入館者数の内数

	H14	H15	H16	H17	H18
入館者数(人)	86,080	82,831	80,494	92,393	83,997
自然体験講座等参加者数(人)	4,552	4,882	6,349	7,338	8,195



利用状況の推移	平成18年度は、約8万4千人の利用がありました。平成17年度に大幅に増加したのは全国的にも天候が安定し、災害もなかったためと考えられます。このように一般の来館者の利用は変動しますが、中京方面からの体験旅行は地元観光協会との連携もあり、すっかり定着しました。開館から8年が経過し、自然体験講座等の参加者数も増加傾向にあり、また県内外の小中学校からの講座依頼も増えるなど、センターの存在が浸透してきたものと考えています。
---------	--

施設の特徴

本県唯一の海中公園(三方海中公園)や若狭国定公園の特徴であるリアス式海岸特有の美しさ、磯辺の生物を観察できる近畿自然歩道を周辺に有し、スノーケリングを始めとする自然体験や、施設内では、若狭の海の歴史や魚の展示、魚にえさを与えたり、直接触れられる体験など本県の豊かな海を実体験できる施設として大変好評です。



各種事業の開催

自然保護思想の普及・啓発のため自然教室や観察会を開催しています。

- ・スノーケリング
- ・磯観察
- ・海藻おしぼ
- ・野鳥観察
- ・お魚観察会



展示事業

海の自然環境についての情報の提供と海を疑似体験できる展示を提供しています。

- ・ふれあい水槽
- ・リアルタイムスコープ
- ・若狭のくらし
- ・マリンホール



研修養成事業

海の自然観察の指導者となる人材の育成のため、スノーケル指導者養成講座等を開催しています

調査研究事業

周辺の自然環境調査を実施し観察会等に活用しています。

資料収集事業

海に関する標本や文献等、展示学習資料の収集を行っています。

海浜自然センターのホームページ URL <http://www.fcnc.jp/>

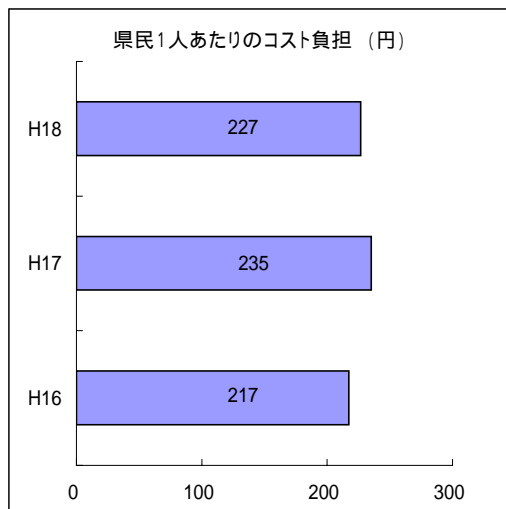
平成18年度の特徴について

事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・三方五湖がラムサール条約湿地に登録され、関心が高まっていることから、引き続き通常展示に加えて「特別展 三方五湖の自然とその再生に向けて」を開催し、来館者に湖に生息する魚類などを紹介しています。 ・従来のセンター事業とは別に、三方五湖の自然環境の保全・活用のため、田んぼを活用した魚類の繁殖や水鳥の餌場の確保にモデル的に取り組みました。(水田魚道2地区、ふゆみず田んぼ(冬期湛水田)2地区) (1,071千円) ・子供連れの来館者の方々に海への親しみを持っていただくため、「塗り絵コーナー」を設置しました。水槽の魚を観察しながら塗り絵を楽しんでいただけます。
------	---

海浜自然センター(2/2)

行政コスト計算書(平成18年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	52,193	28.1%	102.8%
	退職給与引当金繰入	325	0.2%	4.1%
	計	52,518	28.3%	89.4%
物にかかるコスト	物件費	37,880	20.4%	93.8%
	維持補修費	1,693	0.9%	122.2%
	減価償却費	67,761	36.4%	100.1%
	計	107,334	57.7%	98.0%
その他	公債費(利子)	23,250	12.5%	92.5%
	その他	2,778	1.5%	皆増
	計	26,028	14.0%	103.6%
合計		185,880	100.0%	96.1%
収入	利用料等収入	5	0.0%	83.3%
	その他収入	352	0.2%	101.4%
	一般財源	185,523	99.8%	96.1%

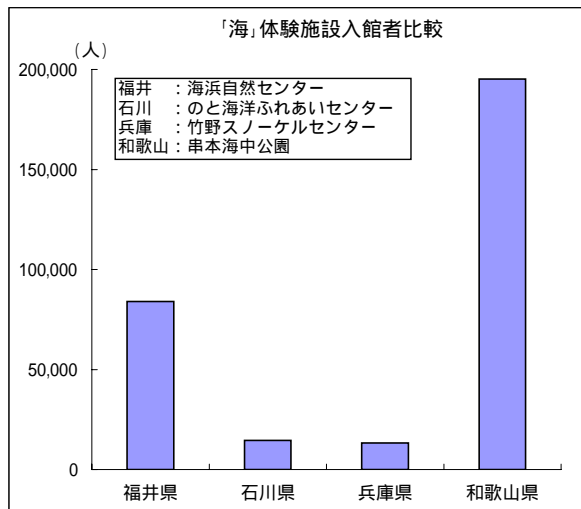


バランスシート(平成19年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	1,220,242	94.8%	固定負債	950,700	91.7%
うち建物・設備	1,218,042	94.7%	うち起債残高	910,925	91.4%
			うち退職手当引当金	39,775	100.8%
投資等	0	-	流動負債	86,105	100.0%
流動資産	0	-	正味資産	183,437	111.8%
計	1,220,242	94.8%	計	1,220,242	94.8%

主な指標 (単位: %, 円/人)

	H18	H17	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	1,491	1,567	95.1%
県民1人あたり将来負担額	1,162	1,262	92.0%
世代間負担率	15.0	12.8	117.9%



バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>平成18年度の行政コスト、県民1人あたりのコストとも前年度と同水準になっています。施設の建設が平成11年度と新しいことから、減価償却費や公債費の割合が高いのが特徴です。</p> <p>物件費のうち、委託料はやや減額となりましたが、開催講座の増加により報償費や使用料が増額となっています。維持修繕費のうち修繕費は庁舎関連のもので、これは、海岸に隣接し潮風にさらされているために年数の割りには塩害で施設が傷みやすく、また建物内部も水槽維持のために海水を扱っており、湿気が多いために設備の修繕が増えています。</p> <p>建設にあたって約14億円の起債借入を行っており、年間の償還額は行政コスト計算書の約半分にあたる86百万円に上ります。この結果、県民1人あたり将来負担額が高水準にあり、世代間負担率も低水準(後世代への負担が大きい)になっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験講座、研修養成事業【H19予算額:約3百万円】(自然保護思想の啓発のための講座・観察会を開催、自然観察指導者を育成) ・展示事業(海の自然環境についての情報の提供と海を疑似体験できる展示を提供) ・調査研究、資料収集【H19予算額:約1百万円】(自然環境調査、標本・映像等の収集・保存) ・ラムサール条約湿地「三方五湖」の再生整備事業、魚類生息調査【H19予算額:約5百万円】(三方五湖周辺で魚類の繁殖・生育、水鳥の休息地・餌場の確保、保全・活用に向けた魚類調査)
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者のうち夏の海水浴に伴う観光客は全国的にも伸び悩んでおり、季節に関係なく来て頂けるリピーター(特に地元の方)へのアプローチが必要です。 ・自然環境保護、生物多様性保全が世界的な課題となり、また三方五湖を中心とする「里海」の保全活用が課題となる中、当該業務の一端を担う当センターの役割は大きく、職員の資質の更なる向上や正確な情報を提供できる密接な連携が必要です。
今後の事業方針取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・リピーターを増やすためにも、親しみの持てるイベントの開催、近隣小中学校等の掲示物のローテーション化など施設運営に努めていきます。また、講座、観察会の新規参加者の発掘に地元観光協会や近隣施設、エコツーリズム推進団体との連携を強化しながら取り組みます。 ・これまで以上に、大学等の専門機関との連携を強化していきます。